

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和八年一月〜三月分)

選者 志やくなげ俳句会 高野 閑林 先生

特選天 まつとうに生きてゴキブリ叩きけり 茨城県 舘 健一郎

「まつとう」とは「まじめ」のこと。真面目に生きてきた人生であるがゴキブリとの出合いに諧謔味があります。

特選地 日脚伸び歩数の増えし万歩計 群馬県 竹湊 千恵子

冬至を過ぎると少しずつ昼の時間が長くなります。毎日の夕方の散歩の様子が万歩計から分かります。気持ちの明るくなる句です。

特選人 元日や母の真白き割烹着 千葉県 土田 宏美

目出たい気分と期待感のある一年の最初の日。母親の姿がなんとも清々しく感じられる句です。「真白き」の措辞が絶妙です。

入選 屠蘇祝う妻と子供と孫とわれ 愛知県 武山 明彦

入選 離れ住む子ら客として三ヶ日 群馬県 竹湊 てる子

入選 地下足袋のゴム底焦げる野焼かな 岩手県 小山 尚宏

入選 逆立ちし地球持ち上げ一年生 岩手県 前田 洋治

入選 春祭りしぶき飛び散る裸衆 中野市 久保 広二

入選 農継がぬ俵に索山子矢を向ける 神奈川県 北村 純一

入選 麗らかや吾子の南語のふえてゆく 埼玉県 小林 美峰